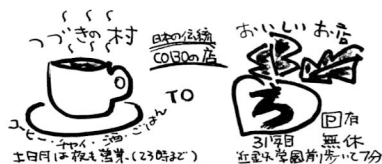


名前のない新聞の置いてある

お 店 紹 介

奈良の学園町にある
老舗の有機八百屋さん

八百屋 ろ つづきの村



〒631-0016 奈良市学園朝日町4-4
Tel.0742-48-1076/Fax.44-3720
近鉄学園前駅から徒歩約7分
Open: 朝10時～夜7時半 年中無休
Mail: yaoya-ro@abeam.ocn.ne.jp
HP: <http://www.tuchi-ro.com/>



11月18日は現在連載エッセイを書いてもらっている奈良の高橋秀夫さんのお店、八百屋ろの収穫祭だったので、お店紹介の取材がてら行ってきた。(その時に撮った動画をyoutubeにアップしてます) お餅つきがあったり、ライブ演奏やちんどん屋が出たりとにぎやかな一日だった。今年で31回目の収穫祭というから有機八百屋の中でも草分けというのか老舗の八百屋さん

だ。もともと東京生まれで劇団をやったり映画をつくっていたひでさんは、無農薬野菜の流通の仕事にかかわったことから、八百屋をはじめることになったという。奈良に来たのはたまたまで、喫茶店をやっていた物件が空いたからやらないかと誘われたのがきっかけだったそうだ。ガラス張りの喫茶スペースはそのまま「つづきの村」という喫茶・軽食・お酒を出す店となり、また隣の倉庫スペースを改造して八百屋をつくった。鶴田静さんや只津くん等、本誌とも関係のある人達も手伝い、裏手にある畳敷きの部屋にみんなで泊まり込んで手作りで店ができた。裏の部屋はその後も旅人たちが泊まれるスペースになっていたそうで、ナナオや山尾三省、ボブやナーガ、イサムさん達とは長いつきあいだという。

喫茶スペースにはピアノが置いてあり、時々ライブ等のイベントやハーブ講座やCOBO(酵母)の会なども開いているそうだ。またカウンターにはお酒もたくさん並び、土日は夜11まで営業しているとのこと。

八百屋の方には主に地元の顔が見える生産者の作った野菜が並び。おもしろいのは「農業高校4組作」の白菜や大根が並んでいたことだ。農業高校の先生がお客で来ていて、実習でつくった有機野菜を売ってくれと頼まれたのがきっかけで、パイロットショップのように売ってるそうだ。

また店を手伝っている次期店長候補の娘さんに話を聞くと、野菜や果物のほかには発酵食品がよく売れている、やっぱり本物

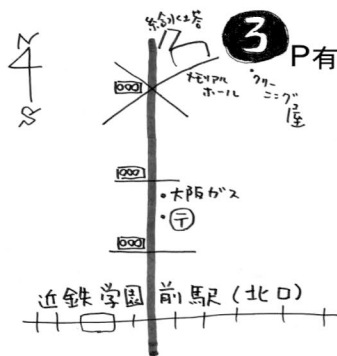


の発酵食品は違う!というので、つい味噌や甘酒をおみやげに買ってきてしまった。

全国に広がった有機八百屋は、店によっては閉めたり変わっていったものもあるそうだが、ろの場合もまたナモ商会なども次世代の若者が中心になりつつあるようで、そういった八百屋の若者同士で横のつながりもできているというから頼もしい。これからもずっとずっと地元でとれたおいしい野菜や果物を提供し続けてくれるだろう。

「三十一回目の春に地をはうごとく…」

「…30数年前。奈良に移った。夜通して廃材を組んで店をつくった。渥美半島の土百姓の作ったトマトがドカーンと届いた。戸板を持って、駅前にトマトを並べた。一人、二人とおそろおそろ買ってくれた。しばらくして、その方が走って、また来た。こんなおいしいトマト、あるの、と。30年前。その家に、ろという名前を付けた。八百屋ろである。ろ、いろはで言う2番目という意味。素人がはじめた商売事である。」



「喫茶スペース」「つづきの村」の店内。ピアノや楽器もあるが意外と広い。

左が八百屋ろ、右手が喫茶スペース「つづきの村」

→次期店長?の娘さんとひでさん